

KIFA

河内長野市国際交流協会

Report

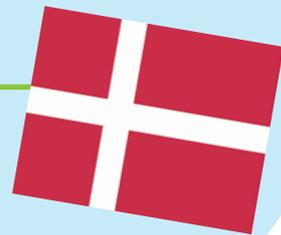
Vol. 123

Apr. 2023



- デンマーク高校生の異文化体験
- 世界情勢 ここに注目! 「ウクライナは今」
- 英語フリートーキング ～オーストラリア編～
- グローバルカフェ ～インド編～
- 多文化の部屋 ～中国編～
- インフォメーション
- K-POP の掛け声文化について





デンマーク高校生の異文化体験

2023年1月20日（金） 大阪府立長野高等学校



大阪 YMCA 主催の交流プログラムにより、1月19日からデンマークの学生が日本に研修旅行に来られ、何人かは KIFA の紹介で河内長野市にホームステイしました。

1月20日には、大阪府立長野高校を訪問し、地元の高校生たちとの交流を楽しみました。同校は、「普通科」以外に「国際文化科」がある高校で、国際交流に関心のある先生や生徒さんが沢山おられます。この日は KIFA DAY ということで、KIFA スタッフも参加して「書道」、「折り紙」、「昔あそび」を体験してもらいました。

オープニングのあと、3つのグループに分かれ、長野高校の生徒さんと一緒に順に日本ならではの文化を体験してもらいました。

▶「昔あそび」で紹介されたのは、「けん玉」と「独楽回し」など。けん玉は、日本の生徒さんが妙技を披露してくださいました。デンマークでも人気の遊びなのか、青い目の達人も発見しました。独楽回しは、教えるスタッフも大変。なにせ半世紀近く前の体験を思い出しながら、冷や汗もの。デンマークの生徒さんだけでなく、日本の生徒さんたちも、力を入れすぎてガシャン！なかなかうまく回りません。難しいぶん、うまく回せた時には歓声があがりました。



▶「書道体験」では、まずは筆の持ち方をレクチャー。次は半紙に「一」を書いて筆で書く感覚をつかんでもらいました。何枚か黒板に貼った見本の漢字を真似たり、自由に筆を使って半紙に書いてもらい最後は自分の名前を漢字にして書いてみることに。当て字の漢字はバディを務めるインターナショナルスクールや長野高校の生徒さんが考え、見本を書いてもらい、それをデンマークの生徒さんが色画用紙に清書して体験終了。デンマークの先生や生徒さんはもちろんのこと、バディの皆さんも習字は久しぶりとのこと、一緒に楽しんでくれました。





▶「折り紙体験」では、折り紙 3 枚でそれぞれパーツを作り、組み合わせて1つの独楽にしました。鶴さえ折ったことがない生徒さんはなかなか苦労していました。でも中には、折り紙が得意な生徒さんがデンマークの学校にもインターナショナルスクールにもいて、楽勝という感じ。独楽が終わったあとに、次々と可愛い動物を折り紙で折っているデンマークの女生徒さんがいて、こちらが習いたいほどの達人ぶり。最後にどの独楽が一番長く回っているか耐久戦をしました。勝者は特製の折り紙の兜と折鶴の賞品をもらいました。

▶「和太鼓体験」最後に、柔道場に集まり、同校の和太鼓部の演奏を楽しみました。皆さん、響き渡る和太鼓の迫力にまずびっくり。和太鼓のバチを借りて、独特のリズムを体験しました。最後に和太鼓部の皆さんによる、大迫力の演奏を聴いてフィナーレとなりました。



ウクライナ は 今

2023年3月4日 市民交流センター 大会議室

講師： 小野 元裕氏



記事を書くのが難しかったことはありますが、こんなに記事を書くのが苦しかったことは初めてです。

ロシアのウクライナ侵攻から1年がたちました。依然として終りが見えてこないこの戦争。なぜロシアはウクライナを攻めているのか、なぜウクライナは必死の抵抗を続けるのか？平和ボケしている日本人には理解しがたいことが多いです。

講師にお迎えした小野元裕氏は、日本ウクライナ文化交流協会を2005年に立ち上げ、以来会長を務められています。日本で様々なウクライナ文化の紹介などをされ、毎年のように現地へ人々を案内していったりと交流をされていました。

今回のロシアの侵攻が始まってからは、ウクライナから避難してきた人たちの支援活動に積極的に取り組んでいらっしゃいます。避難民の支援をしようとする時に、やってはいけないことがあるそうです。それは「考える」こと。私たちが勝手にきつこうだろうと考えて支援するものを提供しても、それは必ずしも彼らの支援にはならないということです。古着や賞味期限の切れた食品などは全く喜ばれません。文化も習慣も食べるものも全然違う人達の支援は、まず理解すること、彼らが欲しいと思っているものを彼らから聞くということから始まります。また、避難してきた人たちは、日本で安全に生活はできるけれど、やはり心配なのはウクライナに残してきた家族や親戚、友人たちの安否です。今、ウクライナで18歳から60歳の男性は国外に出ることが禁じられていますので、たとえ自分たちが安全な場所においても、気になるのは彼らのこと。自分だけが逃げてきていることに罪悪感を抱く人もあるそうです。そこで避難してきても、結局ウクライナに帰る人も多いとか。では、何を提供すれば一番喜ばれるのかといえば、やはりお金です。現地は戦争状態で仕事も殆どありませんから、必要なものを手に入れるにはやはり現金。小野氏の協会では、専従の職員などをおかずに、寄付していただいたお金はインターネットバンキングで、直接現地の必要な人達に送っているそうです。通常の寄付金などは、その団体の職員給与や備品代などに多くが使われ、実際に現地に届くのはかなり少なくなります。その点、小野氏のところに集まった寄付金はほぼすべて現地に渡るといことです。寄付する人の善意がそのまま届きます。

最近、小野氏の協会はウクライナ国内の比較的安全な地に避難所を建設しました。(写真右下) 国外に逃げずに国内にいて避難できる場所こそ、今求められているものの一つだそうです。また、先日来テレビや新聞で取り上げている「使い捨てカイロ」を送る活動はよく知られています。このレポートが出る頃にはようやくウクライナにも春が訪れています。それまで、このカイロが彼らに暖かさを届けてくれたことでしょう。

ウクライナの歴史についてもお話を伺いました。ロシアは「自国は兄でありウクライナは弟で、自分が面倒を見てやる」という主張をしながら圧政と搾取でウクライナを苦しめてきました。ウクライナは、「歴史的にはキエフ公国(ウクライナ)が先で

あり、そこから離れていったのがモスクワ公国だから、ウクライナが母であり、ロシアは子供である」という主張。全くかみ合いません。強硬姿勢を取り続けるプーチンがかつてのソ連から分離していった国々を再びロシアに取り込み強大な帝国にしようという野望をもって、その矛先にまずあつたのがウクライナ。彼の真実に基づかないプロパガンダでロシア国民を欺きながら、実に残忍なやり方でウクライナ人を殺戮しているということを小野氏は現地の人々からの実際の証言に基づいた事実として紹介されました。テレビなどのニュースでは、到底報道できないほどの、悲惨で冷酷な、人間の尊厳を全く踏みにじったような一般市民に対する殺戮が繰り返されているということをお聞きして、会場の雰囲気が変わりました。ジェノサイドという言葉が時々ニュースで流れていましたが、私はあまり良くわかっていませんでした。これはあるグループの存在を抹消することを目的に行われる暴力的な犯罪行為を指します。小野氏の説明によってようやく内容が理解できました。ウクライナ国民を全滅させ更に将来に渡っても子孫ができないようにするという、非常に恐ろしいことが、今おこっているのです。私は、ナチスのユダヤ人虐殺にもつながるような気がしました。



だからこそ、ウクライナ国民は徹底抗戦を続けているのかと思いました。

講演の終わり近くに小野氏の奥様、Ono Akiさんがウクライナ国家「ウクライナは滅びず」を歌っていただきました。常に侵略と圧政に苦しんできたウクライナ国民は、ウクライナの栄光と自由は滅びないという歌詞に、愛国心を掻き立てられ、勇気

をもらっていることでしょう。美しいメロディーは Youtubeでも聴くことができます。

プロパガンダに操られ無慈悲な殺戮を繰り返すロシア。しかし、若い人の中にはインターネットから情報を得て、プーチンの主張が間違っていることに気がついている人たちもいるとか。前述のインターネットバンキングも然り、今、インターネットで世界中がつながっているという事実、これが一縷の希望の光になりますようにと願わずにはられません。



英語 フリートーキング

2023年1月14日(土)

市民交流センター 3階 中会議室

講師:ボブ・ヘスティさん



参加者人数の多さに、先生も、一瞬目を丸くし、驚かれていた1月のフリートーキング「オーストラリア編」。

充実したプログラム内容のまず最初は、オーストラリアの日本人の移民の歴史についてからスタートでした。オーストラリアの記録に残る最初の日本人移住者は、クイーンズランドの1871年～、「さくらがわりきのすけ」さんという曲芸師の方だそうです。

また太平洋戦争時には、オーストラリアにいたほとんどの日本人は抑留の後送還されましたが、終戦後の1949年以降5年間で500人を超えるいわゆる日本人の戦争花嫁がまたオーストラリアに入国したことなどを学びました。

続いて、オーストラリアの先住民アボリジニが描く、“ドットアート”に挑戦。もともと文字を使う習慣がなく、壁などに描いた絵がコミュニケーションツールだったという文化から生まれたこのアート。魚や亀のイラストに、好きな色の絵の具で点をひとつひとつつけていき、仕上げます。配置、配色などを考えながら、皆さん、次第に集中モード。とても楽しそうです。

「作品を発表し合い、優勝者を決めましょう!」の先生からの突

如の提案に皆さん照れ笑いしつつも、それぞれのこだわりポイントなどを発表し合い、映えある最優秀作品賞を手にしたのはなんと、柴理梨亜 KIFA 会長でした。

最後に、クイーンズランドはバナナの大産地であることから、クイーンズランドに長く住む方などのことを、「彼はバナナベンダー(バナナ売り)だよ」といったような現地ならではのジョークや言い回しのクイズなどもあり、オーストラリアの文化を肌身で感じる非常に中身の濃い、あつという間の1時間半でした。



グローバルカフェ ～インド編～

2023年3月9日(木)～11日(土)

市民交流センター 1階 喫茶コーナー

市の広報誌でも紹介された、KIFA 主催のこのイベントは、市民の皆様にもっと世界のいろいろな国のことを知っていただき、身近に感じていただきたいということでオープンしたカフェです。キックスの一階で、三日限りのオープンでした。

今回は「インド編」ということでオープン初日にのぞいてみました。場所はキックスの正面玄関に入って右側。以前喫茶コーナーのあったところです。

「Global Cafe」と書かれた看板がつるされています。入口には極彩色のゲートがあり、仏像のタペストリーのようなものが見えます。卒園式の予行演習でキックスを訪れていた園児たちも、ちょっとおっかなびっくりで、覗き込んでいました。

ほのかに香るインド料理らしき匂いにつられて入ってみました。メニューにはデザートナンという、色々な果物をナンの生地で包んだお洒落なデザートが。飲み物はもちろんチャイですね。インドといえば、カレー。さすがにカフェなので、カレーライスはありませんでしたが、プーリーと呼ばれる、カレーパン風の揚げパンをいただきました。北インドでは、主食として食べられているようで、日本人の口にも合います。

初日の早い時間ということで、まだお客様もちらほらでしたが、テイクアウトされるお客様もあり、図書館の二階にもチラシを置かせていただいたので、昼過ぎからは図書館帰りの方なども立ち寄りられ、3日間たくさんのお客様に訪れていただきました。

世界には、もっと知りたい国、行っ

てみたい国がいっぱいあります。まだまだお手軽に海外旅行というわけにはいきませんが、ちょっと覗いてみて、その国の食べ物や飲み物、雰囲気味わってみるのはいかがでしょうか?

今回は、インド編でしたが、これからいろいろな国のカフェの開催も考えています。ご期待下さい。



多文化の部屋～中国編～

2023年3月18日(土)
市民交流センター 食工房



語学クラブの中国語講師もされている劉麗さんの中国のお話を中国のお菓子をいただきながら聞きました。「中国雑学クイズ」を皆で考えながら劉さんの解説を聞きます。「食事を出されて残すと失礼」にはならないとか。逆にきれいに食べてしまうと、まだ足りなかったのかと思われ、さらに料理が出てくるそうです。残すと「ああお客様はお腹いっぱい食べてくださった」と喜んでくれるそうです。現在の中国ではクリスマスもバレンタインもお祝いしますが、昔は違って、大学生だった頃、英語を専攻していた劉さんが、友達と一緒にクリスマスのお祝いをしていたら、大学の先生にひどく怒られ、ご両親までお咎めを受けたそうです。また、中国といえば、スラッとした美人がチャイナドレス

スに身を包んでいる光景が浮かびますが、これは日本の和服と同様で、現在はよほどスタイルに自信がある人以外、ほとんど着ないそうです。他にも中国にもゴールデンウィークがあったり、ペットボトルで砂糖入りの緑茶が売られていたり面白い情報がいっぱいでした。

さらに、日本では餃子といえばミンチ肉にニンニクを入れますが、中国では入れないそうです。餃子ではなくタレの方にニンニクをすりおろして入れるのだとか。劉さんのご家庭では、醤油、お酢、ごま油、ラー油にニンニクを入れたタレで召し上がるようですが、劉さんご自身はポン酢にニンニクを入れる方が好みだそうです。また、蛍の光のメロディーで「友情は永遠」という歌を中国語で教えていただきました。

最後には簡単な中国語の挨拶なども教えていただき、楽しい時間はあっという間に過ぎました。終了後も劉さんに色々質問したり、お互いに情報交換をする姿もあり、皆さん名残惜しそうに会場をあとにされました。日本語が時々ちょっと変なところも魅力の劉さん、また楽しいお話、聞かせてください。



中国のお菓子
これにお団子と
プーアール茶で
スイーツタイム!



●日本語サロン スケジュール

月	曜日	日曜 Sun.	火曜 Tue.	木曜 Thu.
4月	Apr	2・9・16・23	4・11・18・25	6・13・20・27
5月	May	7・14・21・28	9・16・23・30	11・18・25
6月	Jun	4・11・18・25	6・13・20・27	1・8・15・22

<開講場所と時間>

日曜日 Sundays 14:00～16:00

千代田公民館 2階

火曜日 Tuesdays 10:00～11:45

市民交流センター (KICCS) 3階

木曜日 Thursdays 18:00～20:00

ノバティ南館3階 ノバティホール

●語学クラス スケジュール

○英語フリートーキング 予定講師

4月 Mr. Gottfried Wollboldt (Germany)

5月 Mr. Ryan Fujii (United States of America)

6月 未定

コース	英語 フリー トーキング	英語 (中級)	英語 (初級)	中国語 (中級)	中国語 (入門)	
時間	14:00～15:30	19:00～20:30	19:00～20:30	19:00～20:30	10:00～11:30	
開講日	4月	8	11・25	4・18	7・21	5・19
	5月	13	9・23	2・16	12・19	10・17
	6月	10	13・27	6・20	2・16	7・21

■ハートグローバルジャパンツアー2023

～歌って踊って新たな「ジブン」に出会う3日間～

ハートグローバルのキャストと230人の子どもたちが河内長野で歌とダンスのステージを作り上げます。



と き：ワークショップ

5月26日(金)～28日(日)、
ショーステージ5月28日(日)

と ころ：ラプリーホール大ホール

対 象：小学生～22歳

定 員：230名(先着順)

参加費：20,000円(当日支払い)

申込み：受付中(下記サイトまたは右のQRコードから)

<https://www.heart-global.jp>



■多文化の部屋 ～中国茶編～

お茶にまつわる中国の話をしませんか?!



ゲスト：角高 めいさん

と き：5月20日(土) 14:00～15:30

と ころ：市民交流センター 3階 大会議室

定 員：20名

参加費：無料

申込み：電話かメールで事務局へ(受付開始5月2日)

■カーメル国際アートフェスティバル参加者募集

～アートで深める姉妹都市交流～

米国インディアナ州にある姉妹都市、カーメルで開催されるカーメル国際アートフェスティバル(CIAF)に河内長野を代表して参加するアーティストを募集します。

対 象：河内長野市民

会場で作品展示、実演、販売等のできる方

と き：9月23、24日を含む約1週間

と ころ：米国インディアナ州カーメル市

定 員：2名(面接による選考)

応募申込み：5月20日までに事務局へ

その他：・渡航費は自費

(KIFA補助金あり)

・宿泊はホームステイ(予定)



■国際交流協会2023年度総会

と き：6月4日(日)

午前10時30分より

と ころ：市民交流センター 3階 中会議室

■国際料理教室 ～フィリピン料理にチャレンジ～

フィリピンのランディ・レロ氏率いる民族舞踊団がやってきます。来日時に、彼らから英語でフィリピン料理を習いましょう。

と き：6月21日(水) 10:00～13:00

と ころ：市民交流センター 4階 食工房

定 員：15名

参加費：一般 1500円、KIFA会員 1000円

申込み：電話かメールで事務局へ(受付開始6月1日)

■CPUダンス・カンパニー3年ぶりに来訪

フィリピン イロイロ島のセントラル・フィリピン大学(CPU)の舞踊団が河内長野を訪れ、市内の学校等でダンスを披露し交流します。【滞在期間：6月16日(金)～23日(金)】

■舞台公演：ダンス・パフォーマンス“SALUDO 3”

と き：6月17日(土)

18:30～20:00

と ころ：市民交流センター イベントホール(開場18:00)

定 員：280名

参加費：無料(自由席)

申込み：電話かメールで事務局へ(受付開始6月1日)



■問い合わせ・申込み■

河内長野市国際交流協会(KIFA)
事務局

〒586-0025 河内長野市昭栄町7-1
市民交流センター(キックス)3階

TEL: (0721)54-0002

FAX: (0721)54-0004

Eメール: office@kifa-web.jp

コース	スペイン語 (初級)	韓国語 (中級)	韓国語 (初級)	韓国語 (入門)	タイ語 (初級)
時間	19:00～20:30	13:00～14:30	10:40～12:10	15:00～16:30	19:20～20:50
開講日	4月	7・21	12・26	12・26	7・21
	5月	12・19	10・24	10・24	12・19
	6月	2・23	14・28	14・28	14・28

K-POPの掛け声文化について



皆さん K-POP をご存じですか？

K-POP はお隣の国、韓国のポピュラー音楽のことを言います。2003 年～ 2004 年ごろ韓国のドラマがきっかけとなり韓流ブームが訪れ、ちょうど同じ頃 K-POP グループが日本で活動を始めました。今や K-POP は日本の音楽シーンの1ジャンルとして根付いています。

今回は、K-POP の独特な応援方法の一つ、“掛け声” について紹介したいと思います。

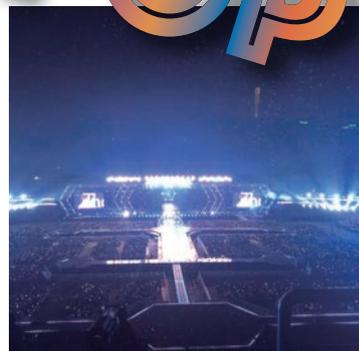
K-POP アイドルがコンサートなどの舞台上でパフォーマンスをする時、間奏に名前を呼んだり、曲に合わせて声を出します。その掛け声はファンが適当に声を出しているのではなく曲ごとに言葉やタイミングが決まっており、ダンス曲だけでなくバラードのようにしっとり聞かせるような曲にも存在し、ファンは決まった掛け声を覚えてライブや音楽番組の観覧などに参加します。

その掛け声は誰が作っているのかといえば、以前はファンが独自に作り、オンライン上やファン同士のつながりで拡散していました。しかし現在はファンも多様化したため混乱を防ぐために所属事務所などで作っているようです。

ライブなどへ行くと数千、数万のファンが同じタイミングで大きな掛け声をかけている姿は壮観です。複数のグループが集まるイベントでは声の大きさ＝ファンの多さのバロメーターにもなります。K-POP の掛け声に慣れてきたファンはコロナ禍でのライブで声出しが禁止されていたのは、何か物足りない気持ちになったかもしれません。やっとライブでの声出しも解禁されてきていますので、掛け声の応援も復活してくるのではないのでしょうか。

もし、K-POP のライブに訪れる際は、動画配信などで曲ごとの掛け声を覚えていくと更にライブを楽しめると思います。

(SnowWorld)



事務局員の 木下です

昨年4月に入職いたしました木下恵です。ご挨拶が遅くなりました。

早くも1年が経ちましたが、コロナの影響もあり、まだまだ KIFA で未経験の行事がたくさんあります。これからも多くの方に携わって頂き、一緒に楽しいイベントを作りあげながら多文化共生社会に向けて、たくさんの方が国籍関係なく気軽に集まれる場所をご提供できたらと思っています。是非、事務局に足を運んで頂き、色々なアイデアをご提案して頂けるのを楽しみにお待ちしております。



K-POP 大好きです!

編

集

後

記

<マスク>ようやくコロナ関連のマスク着用のルールも緩和されるとのこと、咲き始めた春の花たちの香りを、今年は直に愛でることができそうです。卒業式でもマスク無しでの参加が推奨されましたが、学生時代の3年間をずっとマスクしたまま過ごしてきた彼らは、互いに面と向かった時、どんな感じだったのでしょうか。

マスクと言えば「仮面」のことでもあります。この仮面、息苦しさはもちろん否めませんが、便利なところもありました。そんなにしっかりお化粧しなくても大丈夫!人に気づかれずにあくびができる等々。文字通り仮面なので、人にあっても誰なのかを見分けることが難しいこともありました。マスク期間中に知り合いになった人は、もしかするとマスクを取ったら別人のように思うかもしれませんね。これも新鮮かも。

<WBC>World Baseball Classic での日本の活躍、素晴らしかったですね。日本の各チームからの精鋭に、大リーグでプレイする選手たちも加わって、今年はまさに最強!テレビ観戦でも伝わってくる彼らの熱意、パワー、一体感に心を熱くした方も多かったことでしょう。そして決勝戦ではアメリカと対戦し、熱戦の末、とうとう14年ぶりにWBCで優勝を成し遂げました!! コロナ禍での応援の制限から開放され、スタンドで思いっきり声援を送る観客の姿にも感動しました。時は春。今年はいいいことありそうな気がします。

gateauchocolat

新年度 継続のお願い

2023年度会費をお支払い
いただくことで、継続となります
詳しくは同封のチラシを
ご覧ください